

テーマ：ロイター短観（2010年4月）
～製造業に加え、非製造業も着実に回復～**発表日：2010年4月15日（木）****第一生命経済研究所 経済調査部**
担当 エコノミスト 中本 泰輔
TEL：03-5221-4789**○製造業DI：着実な持ち直しが続く**

4月のロイター短観（調査期間3月26日～4月12日）の製造業DIは0と3月（▲8）から8pt改善した。これで6ヶ月連続の改善となり改善幅も大きい。製造業の業況は、海外経済の回復を背景とした輸出の持ち直しを受けて着実に改善している。

内訳をみると、素材型、加工型共に改善している。まず、素材型は、0と3月（▲9）より9pt改善した。繊維・紙・パルプ（4月：▲22←3月：▲40）、石油・窯業（4月：+14←3月：▲22）が改善し、鉄鋼・非鉄（4月：0←3月：0）が横ばい、化学製品（4月：+5←3月：+8）が悪化した。次に、加工型は、0と3月（▲8）から8pt改善した。金属・機械（4月：▲5←3月：▲29）、電機（4月：+3←3月：▲7）、精密機器・その他（4月：+13←3月：0）が改善し、食品（4月：+14←3月：+25）、輸送用機器（4月：▲20←3月：▲11）が悪化した。

電機は、「顧客の機器メーカーの生産増に伴い、受注が好調」などのコメントが示すとおり、回復感が強まっている。回復の背景として、世界的にデジタル需要、IT需要が回復していることなどがあげられる。また、金属・機械についても、設備投資の下げ止まりやアジア向け一般機械輸出の回復などにより改善が続いている。一方で、輸送用機器は、アジアなど新興国向けの輸出は好調を維持していると思われるものの、資材コストの上昇や円高、国内での経済対策による限界的な押し上げ効果の弱まり、リコール問題による販売減への懸念などを背景に、幾分弱含んでいる。

先行きについて、3ヶ月後の見通しは0（4月対比横ばい）とやや慎重な見方となっている。慎重な見方の背景として、原材料価格の上昇を背景とした収益の悪化懸念や、国内での政策効果の弱まりなどがあると思われる。もっとも、先行き、中国を始めとする新興国の経済成長を牽引役として、世界経済が回復が続けるとみられる中で、輸出も増勢を維持すると見込まれることから、製造業の業況も回復基調が続ける可能性が高いだろう。

○非製造業DI：持ち直しが鮮明に

非製造業のDIは▲14と3月（▲22）から8pt改善し、4ヶ月連続の改善となった。製造業と比較して回復が遅れていた非製造業であるが、このところ持ち直しが鮮明になっている。

内訳をみると、製造業に牽引される形で卸売（4月：0←3月：▲7）が、雇用・所得環境が最悪期を脱し緩やかながらも回復傾向にあることから小売（4月：▲16←3月：▲31）が、それぞれ改善したほか、情報サービス・通信（4月：▲8←3月：▲23）、サービス・その他（4月：+3←3月：▲15）も改善した。一方で、建設・不動産（4月：▲40←3月：▲33）は、公共事業の削減や低調な住宅投資の影響から悪化したほか、運輸・電力等（4月：▲29←3月：▲17）も原油価格上昇に伴う原材料費の増加を主因に悪化した。

先行きについて、3ヵ月後の見通しは▲5と9ptの改善が見込まれている。設備・雇用の過剰感が依然として強いことや、需給面からの物価下落圧力が続くことによる採算性の悪化などが足かせとなることから、内需の回復ペースは緩やかなものにとどまるとみられるものの、足元でこれまでの外需の持ち直しが、徐々に内需へと波及する動きも見受けられるようになっている。緩やかな内需の持ち直しを背景として、非製造業の業況も緩やかながら持ち直していくと予想されよう。

